

ごみを集積所に出すに当たって

4月、新生活が始まる季節です。ごみの出し方は、各自自治体により異なります。

今回、家庭のごみを出すに当たって、特に注意すべき事項をまとめましたので、皆さんの適正なごみ出しにご協力をお願いします。

なお、事業所のごみは、集積所には出せません。詳しくは、環境課までお問い合わせください。

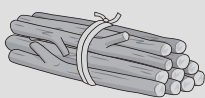


共通事項

- ①各種ごみの収集日の午前8時までに決められた集積所に出してください。
- ②ごみ（資源ごみを除く）は、野洲市指定の袋・シールを使用し、必ず氏名を記入して出してください。※ごみ袋等への氏名の記入は、ごみの分別について責任をもって出していただくものですので、必ず氏名の記入をお願いします。

燃えるごみ

- ①燃えるごみのうち、生ごみは重量比で約4割を占めています。ごみの減量化を進めるためにも出す前に水切りを十分行ってから出してください。
- ②木質ごみ（枝、木くず）は、長さ50センチメートル以下、太さ5センチメートル以下に切って指定袋に入れて出してください。
- ③細かい紙類は、封筒などに入れて「雑誌類」としてリサイクルに心がけましょう。



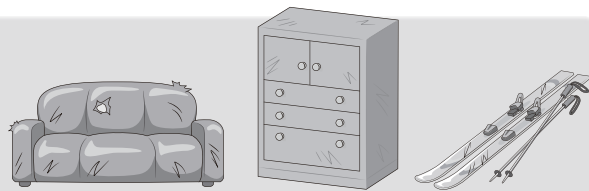
燃えないごみ

- ①陶磁器類・ガラス類（空きビンとしての回収ではありません）、硬質プラスチック類等は、「燃えないごみ」として出してください。
- ②ライターは、収集車両の火災の原因にもなりますので、使い切るか風通しのよい場所で中身を出して、「燃えないごみ」として出してください。
- ③割れたガラスなどは紙や布に包んで「キケンガラス」等記入して出してください。
- ④指定袋に入らないものは、「粗大ごみ」として出してください。

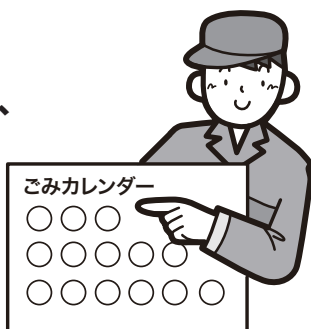


粗大ごみ

- ①家電製品（家電リサイクル対象品を除く）、家具類、寝具類、その他（自転車、スキー板等）は、1点につき粗大ごみ指定シール1枚を貼って、指定のごみ集積所に出してください。
- ②リユース（再利用）にご協力いただける場合は、名前欄に「○」の記入をお願いします。
- ③粗大ごみの集積所は指定しています。アパート等の集積所は指定していない場合がありますので、指定集積所については、環境課やお住まいの自治会に確認してください。
- ④パソコン、バッテリー、消火器等は集積所には出せません。購入店や各メーカーにお問い合わせください。



その他詳細は、
「野洲市ごみ分別名人」、
「ごみカレンダー」を
参考にしてください。



毎月第4土曜は 廃食油回収の日

平成26年4月26日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 ☎ 587-6003、エコロジーマー
ケットやすの会・増村 ☎ 586-1441



◆環境課
☎ 587-6003
FAX 587-3834

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

(115)

【休館日】月曜日（祝日は開館）、4月30日・5月7日 ※ 市民は入館無料

◆テーマ展「昭和のくらし—昔の道具にまなぶ—」／6月1日(日)まで

◆弥生の森体験学習／春休み期間中は毎日開催(休館日を除く) まが玉作り(約60分・500円)など

◆弥生の森歴史公園／桜は4月上旬が見頃

野洲銀座

—昭和のくらし展より—

テーマ展「昭和のくらし」では、ちよつと昔の生活用品や暮らしの風景を紹介しています。今回は、野洲町役場に残されていたフィルムの中から、興味深い一枚の写真を紹介します。

かつて、野洲にも「銀座」がありました。中山道沿いの商店街にかかる「野洲銀座」のアーチは、夜には電飾で浮かびあがったのでしょうか。この写真は、中山道を守山市から野洲、四ツ家をすぎ、行畑の蓮照寺や唯心寺の前の交差点付近から、小篠原へ向かって町並みを望む様子です。右端に唯心寺の門の鬼瓦がみえ、後方の森は行事神社です。昭和40年代の光景と思われ、走る自動車や自転車とその時代を物語っています。毎年7月に行われる地藏まつりには、この付近に夜店が並び、造り物が飾られて、たくさんの人でにぎわいます。

東京の銀座は最先端の商業地で、華やかな憧れの街であり、これにならって「〇〇銀座」や「〇〇銀座通り」と名づけた商店街が全国各地に誕生しました。滋賀県でも、守山市や彦根市の銀座商店街などが知られます。

中山道沿いの野洲・四ツ家・行畑は、古くからの町場で、多くの店屋が軒を連ねています。明治24(1891)年に野洲駅が開業し、駅前には商店街を形成しています。野洲町役場も、昭和43(1968)年に現市役所の位置へ移転するまでは、現在「駅前ザウルス公園」となっている場所にありまし

た。博物館に寄贈を受けた収蔵資料の中に、商店が顧客に配っていたうちわがあります。店名のほか、美しい彩色の絵を入れたものもあり、今は営業されていない店もみられ、往時を感じさせます。中山道や朝鮮人街道は、かつては主要道でしたが、戦後、国道8号、県道2号線、町道(市道)が通り、人や車の流れが変わったことで、まちの様子も次第に変化していきます。

この風景は、当時の誰もが知っていて、日々何気なく見ていたはずですが、意外に写真が残っていません。拡大してみると、看板の文字が読めたりして、いろいろなことがわかっておもしろいものです。

写真というのは、日常のくらしの風景や様子は撮影される機会がほとんどありません。例えば、学校では、入学式、卒業式、遠足や運動会の写真はありませんが、



商店のうちわ

日々の教室での授業や給食、校庭での遊びの姿は写真があまり残りません。当時はカメラやフィルムが高価で、今のように気軽に写真が撮れなかったこともあり、この写真は野洲市のあゆみを記録した貴重な一枚になりました。

もし、こういった古い写真が手元に残っていたら、大切にしたいと思いますが、博物館では、画像をデータ化したあと写真原板はお返しし、機会をみつめて展示や刊行物に活用しています。身近なまちの移り変わりを感じていただければ幸いです。

(博物館学芸員 行俊勉)

野洲銀座(野洲市行畑・昭和40年代)



真はありませんが、